

平成 27 年度全国公立学校教頭会研究大会静岡大会報告書

青森県小中学校教頭会 幹事長 加藤 知明

- 1 大会日程 平成 27 年 7 月 29 日（水）～ 7 月 31 日（金）
- 2 開催場所 静岡県浜松市 アクトシティ浜松
- 3 報告内容 1 日目シンポジウム 2 日目第 1 分科会について



（1）シンポジウム

〈シンポジストから〉

【杉田氏】夢や、郷土愛、人間愛、どう生きるかなどについて、しっかり考えること。そして他者に決定させるのではなく、自己決定できる子どもに育てること。自己肯定感を持てる子どもに育てることが大切である。

【平山氏】現在、アナウンサーを職業にしているが、実は話すのが苦手な人で、声も低く人前で話したくなかった。しかし、ある先生との出会いをきっかけに、自分の物差しはもっと長いかもしれない、自分にはもっと可能性があるのかもしれないと思うようになり、小さな目標を立てて毎日過ごすようになった。それが今の自分につながっていった。

【松永氏】郷土を大切に起業し、実績を積んできた。



〈意見交換から〉

- ・課題を一つ一つクリアしていくことが自信を持つことにつながる。
- ・大人が夢をはつらつと語る事が大切。向上したいという意欲を持つことが生きることにつながる。
- ・自分で決めていいこと、他人に相談しなければいけないことを分け、自分で決めていいことは自分で決めていく力をつけること。
- ・あきらめることも大切。そうしてどう生きるかを考えること。「お前は大丈夫」「あなたはどうしたいの」と言って、期待してくれた先生がいたから今の自分がある。期待して、要求して、頑張ったことを価値づけしていく教師が必要である。

（2）分科会 第 1 分科会「教育課程に関する課題」

【提言 1】北海道空知教頭会 雨竜町立雨竜中学校 坂本征人教頭

「適切な教育課程の編成・実施と組織的な評価・改善における教頭としての関わり」
～ふるさと空知を愛する人を育てる教育課程編成の実践交流を通して～

- ・教育目標を従来のものから「つながる心」「つなげる学び」とし教育活動を見直すことで成果を上げた中学校の紹介があった。
- ・施設一体型小中一貫教育の取り組みと、校舎分離型、町一貫・連携教育の取り組みの紹介があった。

〈グループでの討議から〉

- ・町の一環の取り組みは幼稚園から中学校までの取り組みであり、とても効果を上げていることが分かった。
- ・連携教育の窓口は教頭が中心となって進めていくが、事業が継続していくために主任等を巻き込んだ組織づくりが必要である。
- ・交流や意見交換の場を積極的に設定すること。その中心になるのが教頭である。

- ・地域の良さをしっかりと捉えて、地域のために何ができるかを考えることが大切である。

〈助言者から〉

- ・教育課程の編成に当たっては次の3つが大切である。
 - 法を踏まえているか。
 - 社会的な要請を踏まえているか。
 - 実態に基づく課題を踏まえているか。
- ・小・中連携は「なぜ、何のために」を共有することが大切である。
- ・校長はビジョンを持つこと。教頭は具体的な実践、リサーチとタクティクスを提供すること。

【提言2】石川県鹿島郡教頭会 中能登町立鳥屋小学校 赤壁健司教頭
 「特色ある学校づくりを進めるための教育課程の編成」
 ～地域の教育力の活性を図る取組を通して～

- ・「児童・生徒の安全・安心な環境づくり」「地域と学校のふれあい」「教頭の関わり」という3つのことから提案があった。
- ・特に新しい取り組みとして、土曜授業についての提案があった。

〈グループでの討議から〉

- ・様々な取り組みの目的をはっきりさせることが大切である。
- ・外部人材とのつながりを作る組織はどんな形であれ整備したい。
- ・地域との関わりを大切にして、地域に戻ってくる子を育てたい。
- ・地域人材を学校に活用するというような一方通行的な活用ではなく、学校が地域に出ていくというような、学校から地域へという方向の取り組みも必要である。

〈助言者から〉

- ・何を目的にしているかを明確にすること。
- ・教育課程編成において次のポイントを踏まえること
 - 関係者を共有した土台作り。
 - 協力を得る。マネジメントする。
 - 意識差を埋める。橋渡し役をする。
 - 仕組みづくり、システム作りをする。
- ・教頭先生のすべきこと
 - ビジョンの理解者となること。ときにはビジョンを働きかけること。
 - 目的を意識すること。
 - どこに意味があり、どこにつながっていくかがわかること。
 - PDCA、リサーチと発信を大切にすること。
 - 部分を細かく見る。さらに全体を見ること。
 - 頼られるリーダーになること。
- ・情報を把握すること、情報を発信することが大切である。
- ・どういう子どもか、どういう地域かをつかむことが必要である。
- ・気づき、考え、行動すること。気づかせ、考えさせ、行動させることを実践すること。



4 おわりに

様々な考えや、実践、知識を得るだけでなく、教頭としてのすべきことを他の教頭先生と共有することもできた。地域との連携という事や子どもを育てるために何が必要か考えることもできた。さらに、歴史から教頭のあるべき姿を聞きとても参考になった。学んだことを生かして今後の業務にあたりとともに、県の教頭先生に還元できるよう努力したい。